

アコウ（クワ科）

～絞殺しの木！（絞殺木）～

唐津市から竹木場、切木ボタンで有名な切木を通り、国道204号線を入野・星賀と目指して西の方に進むと、一方、玄海町金ノ手より左折して牟形を進み南進すると、肥前町古保志気（コボシキ）で2つの国道がつながる。古保志気はこの辺の交通の要所で、丁度、東西南北を向いた4差路になっている。ここから南の方に下ると約5～6分で高串に着く。

高串は南西が海に面した静かな町で、かつて漁業港として賑わいをみせたところである。町の南側には、伊万里市の福島や少し西の方には元寇で有名な鷹島を望むことができる。

高串に入って高串小学校を目指して5～6分ほど歩くと、高串郵便局の前に出る。郵便局の裏の大きな砂岩の上にアコウの大樹が立っている。

幹回り20～30センチメートルほどの太さの幹から、十数本に枝分かれして7メートルもの高さで伸びている。青緑色の葉を付けた枝は東西南北10～15メートルくらいの広さで広がっている。

この木の見どころは、幹の周囲から、およそ9メートルにも及ぶ多くの気根を垂れ下げているところ。大小さまざまな気根の様は、国内の樹木では観察することのできない雄壮な感じがする。南方の国々で生活するための植物の知恵か。南方では、アコウはヤシやアカギのなどの樹木の上で発芽し、やがて成長すると気根で親樹をおおいつくし、枯らしてしまうこともあるそうで、そのため「絞殺木」といわれる。

アコウはクワ植物の一種で、イチジクと同じ属である。葉はやや厚く裏表ともに毛がなく、楕円形～長楕円形で、長さ8～15センチメートル、幅4～8センチメートル、丁度、観葉植物のインドゴムの木の葉によく似ている。雌雄同株で、経約8ミリメートルくらいの半球形の実がなるが食用にはしないという。若い枝に傷を付けると白乳が染み出してくる。常緑樹だが、春に落葉して、すぐに新葉に変わる。

「天然記念物 高串あこう自生北限地帯」昭和3年1月18日 文部省指定とした説明板が設置されている。佐賀県の希少動植物の「絶滅危惧種 II 類」にも指定されている。

台湾、中国大陸南部、琉球、本州（紀伊半島）、四国、九州の海近くに生える。現在では、壱岐にも分布が確認され、それに次ぐ分布北限になっている。

分野 自然

地域 肥前

◎地図・写真・統計資料など



（川浪誠氏より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『日本の野性植物 木本Ⅰ』平凡社
- ◆『九州植物目録』初島住彦 佐賀県植物目録

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467